

## カメラのはじまりを体験しよう！

虫メガネと箱を使って、光から像（姿、形）が生まれるしくみを体験します。レンズを通った光がどのように映るのかを観察しながら、自分だけの「見るための箱」をつくります。箱の中に現れる逆さまの景色や光の不思議を通して、カメラの原理や「見る」ということの面白さに触れるワークショップです。

**募集人数** 小・中学生 10名

**日時** 2026年10月18日(日)  
14:00～16:00

**会場** 北九州市立美術館・本館  
エデュケーションルーム B

**講師** 長野 聡史 (写真家)

田川市在住。九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)在学中から作家活動を開始。2010年よりフリーランスフォトグラファーとして様々なジャンルの写真を撮影し、20年以上活動を続けている。また筑豊拠点の芸術NPO「アーツトンネル」に所属し、地域の文化支援活動を展開している。



## 草木染めでエコバックをつくろう！

美術館のまわりにある植物を観察し、つま取った野の草花の「いのちの力」を布に写し取る染めの技法「バンドルダイ」に挑戦します。自分のつま取った草花でデザインしたオリジナルエコバックをつくります。

**募集人数** 小・中学生 8名(保護者同伴)

**日時** 2026年12月6日(日)  
13:00～16:00

**会場** 北九州市立美術館・本館  
エデュケーションルーム B

**服装** 汚れてもよいもの  
またはエプロン

**講師** 平山 仁美 (洋裁家)

北九州市在住。2011年よりオリジナルブランド Atelier ce et ce (アトリエセッセ) を立ち上げ、「健やかな衣服を」をテーマに制作と発表を続けている。近年は自然素材に植物や時間の痕跡を布に写し取るバンドルダイの染めを施した作品を制作し、循環とともに、まとうことの意味を探っている。



北九州市立美術館 2026年度

参加者募集!  
参加無料

# ワークショップ

最後の!

## ぬいかけの植物園計画室

《ぬいかけの植物園計画室》はアーティスト中島佑太さんと北九州市の子どもたちが一緒に10年かけて「植物園」をつくるプロジェクトで、ついに今年で10周年を迎えます!

保管してある植物園をひっぱり出して、植物園を遊び、キレイにしまって、また来年。10年という時間の中でいつの間にかそうやってきた「いつもの」過ごし方です。今年もいつもみたいに遊んで、10年目を終えようと思います。植物園を遊ぶ時間に、参加してくれる方を募集します。



### ① 2026年11月28日(土) 「植物園のグッズやさんをつくろう」

ぬいかけの植物園に何度も登場するグッズやさん。2025年のワークショップでは、グッズやさんで使える「はっぱ」という通貨が登場しました。「はっぱ」を公式通貨とし、発行したり、グッズをつくって遊びましょう。

**日時** 2026年11月28日(土) 13:00～15:00

**会場** 北九州市立美術館・本館  
エデュケーションルーム B、エントランスホール

**対象** 裁縫ができる人 15名

**服装など** 動きやすく汚れてもよいもの、裁縫道具、いらなくなった布(あれば)



### ② 2026年11月29日(日) 「ハムハムをカスタムしよう」

ハムハムは「ぬいかけの植物園」の公式キャラクターに選ばれたハムスターのような植物です。2025年の展覧会「中島佑太 だれかと逃げ出せグーチョキパー!」開催に合わせて、着ぐるみも制作された人気のキャラクターです。その後、ポーチや花飾りなどが制作され、ハムハムも日々変化しています。こんなハムハムがいたらいいな!と想像を膨らませ、ハムハムをカスタムして遊びましょう!

**日時** 2026年11月29日(日) 13:00～15:00

**会場** 北九州市立美術館・本館  
エデュケーションルーム B、エントランスホール

**対象** 裁縫ができる人 15名

**服装など** 動きやすく汚れてもよいもの、裁縫道具、いらなくなった布(あれば)



アーティスト

中島 佑太

1985年に前橋市に生まれ、現在も前橋市在住。東京藝術大学卒業。ルールや思い込みにとらわれワークショップを続けるアーティスト。もしくはアーティストという役を演じている人。

中島佑太 HP <https://nakajimayuta.net/>

